

令和7年第2回定例会
12月議会

県議会

あ
き
た
だ
よ
り

令和8年1月発行
No.194
全戸配布広報紙
年4回発行

ユネスコ無形文化遺産 大日堂舞楽
(平成21年登録)



新年のごあいさつ



秋田県議会議長

くどう よしのり
工藤 嘉範

明けましておめでとうございます。皆様、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと、引き続く物価上昇や夏の記録的な大雨による被害に加え、もはや災害と言うべきクマの異常出没と相次ぐ人身被害により、県民の生活や地域経済が大きな影響を受けました。

とりわけクマによる被害については、農業や観光業のみならず、通学や買い物など住民の日常生活にまで深刻な影響が出ており、安全・安心な秋田を確保するため、緊急即応体制の強化とともに、県を挙げた中長期的な対策にも取り組んでいく必要があります。

一方、昨年4月に鈴木新知事を迎えて県政の刷新が図られている中、県議会としても、知事が推進するマーケティング戦略について学びの場を設け、マネジメントやプランディングなど、経営的視点による行政運営への理解を深めながら、新たな総合計画について議論を進めており、本県の更なる発展を期した政策の実現に尽力してまいります。

併せて、若者に対して社会参加することの意義を理解し政治を身近に感じる機会を提供するため、高校生を対象とした主権者教育講座を全議員参加により実施するなど、開かれた議会に向けた取組を一層推進してまいります。

結びに、本年が皆様にとって、平穏で実り多き一年となりますことを心から祈念し、新年のごあいさつといたします。



一般質問

8人の議員が一般質問を行いました。

各議員の主な質問と知事等の答弁の要旨を掲載します。



佐藤信喜議員

[会派] 自由民主党
[選挙区] 能代市山本郡

主な項目

- ① ツキノワグマ対策について
- ② 福祉・介護・看護職員等の処遇改善と公定価格制度の地域格差是正について
- ③ 秋田版起業教育について
- ④ 高校生のアルバイトについて
- ⑤ 高校生による特定小型原動機付自転車や原付バイクの通学・日常使用について
- ⑥ 信号機等の設置について

高校生のアルバイトについて

高校生による特定小型原動機付自転車や原付バイクの通学・日常使用について

Q 高校生のアルバイトは、キャリア形成に大きな意義を持つ教育機会であり、進路選択にも活けると言える。希望する生徒が十分に取り組めるよう、前向きに検討すべきではないか。

A (教育長) 高校生のアルバイトは、労働の意義や職業への理解が深まるほか、社会性を身に付けられる一方、学校生活に与える影響なども、十分に考慮する必要がある。現在も、校長が個々の生徒の状況を踏まえて判断し、一定の条件のもとで認めている。今後は、社会の変化を踏まえつつ、アルバイトに係る規定を含めた校則や、その運用について必要な見直しを図るよう、各高校に働きかけていく。

Q 高校生の行動範囲が限定され、地域を知り社会経験を積む機会が失われないよう、交通安全教育とセットで、通学や日常的使用を認める制度を導入してはどうか。

A (教育長) 原付バイクの事故は10代の死傷者割合が高いほか、自動車と比べ致死率も高いことから、高校生の使用については、交通ルールの遵守や安全運転に一層の注意を払わなければならないと考えており、社会情勢の変化を踏まえつつ、安全性と利便性の両面を考慮した上で、適切な使用の在り方を検討していく。

MOVIE





やまがたけんじ
山形健二議員

[会派] みらい
[選挙区] 横手市

●主な項目

- ① 稼ぐふるさと納税について
- ② 陸上競技場にかかる設備・環境整備の改善について
- ③ 若年層の人口流出や地域産業を支える人材の育成・確保について

MOVIE



稼ぐふるさと納税
-県が「稼ぐ」主体となるための意識改革について-

Q ふるさと納税の目標額1億円との設定は消極的でスピード感に欠けるため、目標を数十倍規模に引き上げ、全国トップクラスを目指す考えはあるか。

A (知事)令和6年度のふるさと納税の県収支*が約8億円のマイナスに拡大したため、寄附額を拡大させ収支改善を目指す。まずは令和8年度の目標額を1億円として、令和11年度には行財政運営方針(素案)(P3①)に掲げる8億円の達成を目指していく。

※「県(市町村を除く)のふるさと納税受入額」と「県民がふるさと納税を行ったことによる県民税の控除額」の差引額

陸上競技場にかかる設備・環境整備の改善
-修繕の優先順位について-

Q 県営陸上競技場は築41年が経過し、設備の老朽化が進む中、高額な時計塔修理よりも、第一種公認の陸上競技場として優先すべき修繕があるのではないか。

A (建設部長)第一種公認継続のため、令和6年度に用器具更新のほか、フィールドやトラックの大規模改修を実施した。時計塔は競技運営に重要な役割を担っており、早期修繕の要望があることから設計を進めているが、改めて関係者の意見を伺った上で実施の可否を判断する。今後も利用者の安全を最優先とし、関係団体等と調整しながら、限られた予算の中で計画的な修繕に努めていく。

Glossary
用語解説

【①行財政運営方針】

行財政運営方針は、令和8年度から令和11年度までの4年間を期間とする行財政改革の新たな指針。

深刻化する人口減少と少子高齢化に加え、災害が激甚・頻発化する中、持続可能な行政サービスの提供体制の構築と、令和8年度からの新たな「秋田県総合計画」に掲げる施策・事業の着実な遂行を下支えすることを目的とし、「人材確保・育成」「財政の健全化」「持続可能な行政運営に向けた全庁的な取組の推進」の3つを柱に据え、取組を推進していくことについている。

行財政運営方針(素案)

柱1 人材確保・育成

【基本的な考え方】

人口減少が進む中でも多様な人材を確保するとともに、限られた人的資本で組織パフォーマンスの最大化を目指し、職員一人ひとりが意欲を持って仕事に取り組むことができる職場環境を整える

【取組項目】

- ① 適切な人員管理と多様な人材の確保
- ② 人材の育成
- ③ 働きやすい職場づくり

柱2 財政の健全化

【基本的な考え方】

人口減少対策をはじめとした「未来への投資」の着実な実行と「持続的な行政サービスの提供」に向けて、財政の健全化に取り組む

【取組項目】

- ① 公債費負担の適切な管理
- ② 歳出規模の適正化
- ③ 歳入確保の取組強化

柱3 持続可能な行政運営に向けた全庁的な取組の推進

【基本的な考え方】 一定の組織体制や公共施設のスリム化等を基本的な考え方として、住民サービスの維持・向上を図りながら持続可能な行政サービスの提供体制の構築を目指していく

【取組項目】

- ① 行政サービスの提供のあり方の見直し
- ② 公共施設等の適正配置・機能更新

一般質問

8人の議員が一般質問を行いました。
各議員の主な質問と知事等の答弁の要旨を掲載します。



すずきまみ
鈴木真実議員

[会派] 自由民主党
[選挙区] 南秋田郡

●主な項目

- ① 高市総理の取組への期待と評価について
- ② 秋田県財政と地方の自主性について
- ③ 深刻化するクマ被害への対策強化について
- ④ 望ましい米政策の在り方について
- ⑤ 地域公共交通を守る取組について
- ⑥ 八郎湖の再生に向けた取組と次世代への継承について

MOVIE



秋田県財政と地方の自主性 -地方の自主性の確保について-

望ましい米政策の在り方 -今後の米政策について-

Q 地方創生の実現には、各地域が実情に応じて創意ある施策を進めていく必要がある。地方の自主性確保のため、全国知事会を通じ、権限や財源の更なる移譲を国に要望する動きを生み出せないか。

A (知事) 年2回の各省庁への提案・要望に加え、個別の要望活動も積極的に実施し、ツキノワグマの被害防止に向けた自衛隊による活動支援の実現など、一定の成果を上げてきた。持続可能な地域社会の実現には、地方の自主性を高めていくことが不可欠であり、県関係国会議員や全国の知事と連携を深めながら、国に対し、本県の実情を踏まえた様々な提案を行っていく。

Q これからの望ましい米政策の在り方をどのように考えているか。米産県秋田として、国に積極的に施策を提案すべきではないか。

A (知事) 米の主産県として、農業団体等と連携し確実な需要の掘り起こしに取り組むほか、省力化や超低コスト生産につながる技術を普及するなど、農家の所得向上が図られ、将来にわたり希望をもって営農できる施策を講じていく。国には、コストを踏まえた価格形成を実現する仕組みづくりや、生産者が再生産可能な収入を安定して得られるセーフティーネットの再構築などを要望している。



おやまろくろう
小山緑郎議員

[会派] 自由民主党
[選挙区] 大仙市仙北郡

●主な項目

- ① 農業政策について
- ② インフラの老朽化対策について
- ③ 道路政策について
- ④ 防災対策について
- ⑤ ツキノワグマ対策について

MOVIE



農業政策

-節水型乾田直播の普及・促進について-

ツキノワグマ対策

-獣友会等への支援について-

Q せつすいがいたんでんちくは 節水型乾田直播[※]は生産意欲を支える有効な強化策と考えるが、今後どのように普及を図っていくのか。

A (農林水産部長) 乾田直播については令和6年度から生育状況や作業時間などの調査を行っている。令和8年度からの試験栽培の成果を基にマニュアルを作成して生産現場に普及していく。一方、節水型乾田直播は、収量性や雑草対策、いもち病の発生リスクが高まるといった課題があるため、全国の実証結果を情報提供するほか、県内で先行して取り組む生産者の生育状況や収量、品質・食味などの把握に努めていく。

Q 獣友会をはじめツキノワグマ対策を実施した方々に対して、全県統一の報酬アップが必要ではないか。

A (知事) 活動の報酬は市町村の財政状況や報酬体系により、ばらつきがあり、人員確保や活動意欲に影響を与えることから、危険度や労力に見合った金額への引き上げなど、格差是正に向けて、適切な報酬体系について市町村に働きかけていく。加えて、12月議会に奨励金等を支給する補正予算を提案しており、獣友会の活動を継続的に支援していく。

※水を張っていない乾いた田んぼに種粉を直接播く栽培方法の一つで、通常の直播は芽が出た後に水を張るが、節水型は水を張らずに必要最小限の水管理で行う栽培方法



ふくた ひろゆき
福田博之議員

[会派] 立憲民主党
[選挙区] 秋田市

●主な項目

- ① 県民の命を守るクマ被害対策と猟友会への支援について
- ② GX2040ビジョンを踏まえた今後の産業戦略について
- ③ アオコガ男鹿の漁業に与える影響について
- ④ 持続可能な物流体制の構築について

MOVIE



県民の命を守るクマ被害対策と
猟友会への支援
—ガバメントハンターの採用について—

県民の命を守るクマ被害対策と
猟友会への支援
—実施隊の社会的地位向上について—

Q 地域振興局単位でガバメントハンターを配置すべきと考えるが、採用に当たっての課題や想定人物、理想的な配置体制をどのように考えているか。

A (知事) 任務の重さにふさわしい身分や待遇が必要と考え、自治体職員が業務として銃猟を担うガバメントハンターとしての枠組み構築を国に要望した。県内の市町村には、令和8年度に雇用の意向もある一方、単独雇用に慎重な意見もあり、引き続き意見交換を行なながら、実効性のある体制の構築、ガバメントハンターの在り方について、速やかに検討を進める。

Q 鳥獣被害対策実施隊 (P5②) 制度が有効に機能するには、社会全体で支える仕組みづくりが急務である。社会的地位向上を支援し、出動しやすい環境の整備について、どのように取り組んでいくのか。

A (知事) 狩猟免許 (P5③) の取得や狩猟者の果たす社会的役割について発信するフォーラムを引き続き開催するほか、市町村に適正な報酬体系の構築等を働きかけていく。また、経済団体に対し、民間企業に所属する狩猟免許取得者が出動しやすい環境づくりを要請したところであり、今後、休暇の取得や兼業禁止に関する運用の緩和等を促していく。

Glossary
用語解説

【②鳥獣被害対策実施隊】

鳥獣被害を防ぐため、市町村が作成する被害防止計画に基づいて、捕獲や追い払い、侵入を防ぐ柵の設置などの活動を行う組織のこと。

県内では、鳥獣被害防止特別措置法*に基づき、全ての市町村で実施隊が設置されている。

実施隊は、猟友会員や市町村職員、農林漁業者などで構成され、隊員は、狩猟税の軽減措置やライフル銃の所持許可などの優遇措置を受けることができる。

*鳥獣による農林水産業等に係る被害の防止のための特別措置に関する法律

【③狩猟免許】

狩猟免許は、鳥獣保護管理法*により、狩猟を行おうとする者に取得が義務づけられている。使用しようとする猟具の種類により、網猟免許、わな猟免許、第一種銃猟免許、第二種銃猟免許の4種類があり、都道府県知事が実施する狩猟免許試験に合格すれば取得できる。なお、狩猟免許の有効期間は約3年間で、有効範囲は全国一円となっている。

*鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律

一般質問

8人の議員が一般質問を行いました。
各議員の主な質問と知事等の答弁の要旨を掲載します。



おだなぎまさゆき
小棚木政之議員

[会派] 自由民主党
[選挙区] 大館市

●主な項目

- ① クマの大量出没について
- ② ユースバルの事業停止と指定管理者制度について



クマの大量出没 —クマ対策の根本的な見直しについて—

指定管理者制度の 在り方について

Q 昨今のクマ被害の特徴をどう捉え、県として、どのような対策、どのような制度を国に強く求めるのか。

A (知事) クマは行政区域を越えて行動するため、国に対し、適正な保護・管理に向けた国の組織体制の強化、モニタリング調査や人との軋轢を軽減する施策、AI等を活用した侵入防止対策や捕獲方法等の研究開発、ドローンの規制緩和、自治体職員による銃猟使用の環境整備を早期に実施するよう要望した。国は、被害状況に応じた財政支援や規制緩和等を行うものと考えており、県は、市町村等の関係機関と連携し、実情に応じた最良の被害防止対策を着実に進めていく。

Q 柔軟性に乏しく、競争原理が働きにくい指定管理の仕組み自体を見直す時期に来ているのではないか。

A (知事) 公募前のサウンディング*や運営状況のモニタリングの導入など、制度の改善に努めてきたが、応募者の固定化傾向が見られるほか、顧客視点のサービス面で改善余地のある集客施設もあるため、外部有識者委員会による評価制度を活用し、より適切な運営やサービス向上につなげていく。今後も、県が施設を所有する必要性や施設機能の最大化を図る効果的な手法について、不断の点検を行っていく。

*民間事業者の参入を促進するため、指定管理施設の運営手法や公募要件等の検討に当たり、県の考えに対する民間事業者の意見を可能な限り広く聴取する調査手法



たけうちのぶふみ
武内伸文議員

[会派] 自由民主党
[選挙区] 秋田市

●主な項目

- ① ツキノワグマ被害対策について
- ② 生産年齢人口の減少について
- ③ 再生可能エネルギーと港湾整備について
- ④ 再エネ工業団地について
- ⑤ クルーズ船の今後について
- ⑥ 新スタジアムについて
- ⑦ 伝統文化の継承と「あきた県民文化芸術祭」の戦略的活用について
- ⑧ 拉致問題等について



再生可能エネルギーと 港湾整備について

新スタジアムについて

Q 風車の大型化に伴い、大規模なストックヤードや組立場所が必要となる中、能代、船川、秋田の三港の役割分担を整理し、国に整備強化を求めていくべきではないか。

A (知事) 秋田港及び能代港は洋上風力発電の整備等の拠点、船川港は維持管理の拠点として役割を整理し、国と共に整備を推進してきた。令和6年には、船川港を浮体式洋上風力発電の組立や保管を担う拠点とした構想をとりまとめ、県内三港が連携し、洋上風力発電事業が円滑に展開されるよう利用調整を行っており、風車の大型化に対応する港湾機能強化についても、引き続き国に要望していく。

Q 中長期スパンでの効果も視野に入れ、「スタジアム＆アリーナ」を核とした秋田の未来戦略協議会など、もっと夢のある議論をもとに、進めていくべきではないか。

A (知事) スタジアム整備は、新県立体育館整備と同様、地方創生やまちづくりに大きく寄与するものであり、周辺事業者を巻き込んだ官民連携組織の設立の検討などの観点が求められる。ミルバスや新県立体育館等との相乗効果により、秋田駅から八橋エリアで、多様なスポーツ・文化活動が行われ、若者をはじめ県民が集い、活気あふれる県都が実現されるよう、秋田市やクラブ、商工団体等と協議・連携しながら取り組んでいく。



まつだとよおみ
松田豊臣議員

[会派] 公明党
[選挙区] 秋田市

●主な項目

- ① クマ被害対策について
- ② 食品ロス対策について
- ③ 雪の利活用について

MOVIE



クマ被害対策
—更なる捕獲・駆除の緊急対応について—

雪の利活用
—雪冷熱エネルギーの利活用の拡充について—

Q 国の「クマ被害対策パッケージ」を踏まえ、可及的速やかに対策を実施すべきであるが、今後どのように取り組んでいくのか。

A (知事) 国のパッケージには、本県の要望内容が概ね含まれており、今後、具体的な内容が判明した後、関連事業を速やかに実施していく。特に、春季のクマ捕獲については、来春からのゾーニングに基づく管理捕獲(P7④)を速やかに実行できるよう、市町村と連携して準備を進めている。この取組により、捕獲圧をかけて人との軋轢を軽減し、日常生活圏へのクマの出没抑制対策を強力に進めていく。

Q 「雪冷房」活用への理解促進と自然災害時に避難所となる学校体育館での利活用の検討が必要ではないか。

A (知事・教育長) 雪冷熱エネルギー*は、電気冷房よりランニングコストが抑えられる一方、雪の貯蔵庫や輸送コストなどに課題があるものの、今後も、参考事例を紹介するなど、雪冷熱の利活用が進むよう普及啓発に努めていく。学校への雪冷房システムの導入は、多額の経費を要するため、困難と考えており、喫緊の課題である学校体育館への冷房設置は、県立学校一律に導入可能で費用対効果の高い手法を検討していく。

※雪国という地域特性を活かした再生可能エネルギーで、冬季に降った雪や外気で凍らせた氷を雪氷貯蔵庫などに保管し、その冷熱を夏季の冷房や農産物の冷蔵などに利用する。

Glossary
用語解説

【④ゾーニングに基づく管理捕獲】

野生鳥獣管理における「ゾーニング」とは、人と野生鳥獣との棲み分けを図ることを目的として地域を区分することを指し、その区分に応じた対策を行うことを「ゾーニング管理」という。

「秋田県第二種特定鳥獣管理計画(第6次ツキノワグマ)(令和7年3月)」においては、「防除・排除地域」、「コア生息地域」、「緩衝地域」の3つのゾーン区分に加え、緩衝地域の中でも市街地に近いなど、クマの定着を防ぎたい場所に「管理強化ゾーン」の小区分を設定することとしている。従来、春季の管理捕獲(残雪期に山中で行う捕獲)では親子グマや穴グマの捕獲を禁止してきたが、管理強化ゾーンではそれらが可能になる。



委員会審査（予算特別委員会分科会審査）

総務 企画 委員会

Q 県の広報に関してアンケート調査等を行う戦略的広報調査事業について、これまで様々な検証を踏まえて広報を行ってきたと認識しているが、なぜ改めて調査が必要なのか。

A 情報社会の進展などを踏まえ、これまでターゲットに即した情報発信を行い、県民意識調査などを通じて効果を確認してきたものの、県民満足度の向上に向けて、より精度の高い広報を効果的に行うため、媒体別、年代別に詳細な調査・分析を行い、今後の広報の在り方を検討していきたい。

秋田県広報紙あきたびじょん
2026年1月発行号表紙



Q 次期総合計画の中核をなす「人口減少社会への対応と社会減の抑制」の目標値として掲げる「社会減少数1,990人以下」の実現により、どのような効果があるのか。

A 持続可能な地域社会に向けて、若年層を中心とした転入増加や転出抑制に係る施策を図っていくことで社会減のペースを緩和させ、年少人口の減少に歯止めをかけていきたい。

福祉 環境 委員会

Q 医療施設等経営強化緊急支援事業による支援金は、職員数の規模に関わらない施設単位の支給であることから、経営判断により運営資金等に流用され、賃上げにつながらない可能性がある。職員の処遇改善に資するよう、要件とすべきではないか。

A 現段階では賃上げ実施を要件とはしていないものの、実際の対応状況の確認及びその手法については、今後、国から示される詳細な情報を踏まえ、対応していきたい。



実施隊員による
箱わなの設置作業（イメージ）

Q ツキノワグマ捕獲緊急対策事業は、市町村の実施隊への報酬等に上乗せするものか。また、市町村の報酬形態にばらつきがあることで不公平感が生まれていると考えるが、今後、どのように対応していくのか。

A 本事業は、危険を顧みず連日対応にあたっている隊員の負担に報いるため、上乗せ分を計上したものである。市町村間の待遇差については、県と市町村の協働政策会議で、報酬の充実を提案し合意を得たが、具体的な対応は各自治体の事情にもよることから、今後も意見交換を重ねていきたい。

農林 水産 委員会

Q 広域緩衝林帯整備事業は、人の生活圏へのツキノワグマ出没を緩和するための緩衝林整備等の経費であるが、整備する緩衝林は、秋田県ツキノワグマ管理計画で設定される緩衝地域と調整が図られているか。また、コア生息域に餌となる広葉樹を植えるべきではないか。

A 整備する地域は、市町村からの要望に基づき採択しており、緩衝地域内である。また、再造林不適地や奥山は広葉樹林や針広混交林に誘導しており、広葉樹林化と生物多様性の関連を分析し、ツキノワグマ対策にも資する健全で多様な森づくりを推進していく。

Q 秋田米の需要が横ばいの中、令和8年度からの次期秋田米生産・販売戦略では、どのように需要を捉え販売につなげていくのか。

A サキホコレのブランド化やあきたこまちRの導入をきっかけとした安全・安心な米の生産を強力に推進するとともに、今後、需要拡大が見込まれる輸出用米や業務用米をターゲットとして、まずは多収品種と高密度播種を組み合わせた栽培、将来的には乾田直播技術の導入により超低コスト化を進め、価格競争力を高めることで秋田米の需要を確実に獲得できるように取り組む。

産業 観光 委員会

Q 学校や地域など、スポーツの現場で問題が生じても、組織構造や体質により、情報が外部に出にくい場合がある。スポーツ・インテグリティ^{*}向上に向け、相談者を守る外部窓口の設置など、競技の枠組みを超えた具体的なシステムの構築が必要ではないか。

A ハラスメントや体罰などの問題は、学校だけでなく、スポーツ少年団等の活動でも起こりうる。指導者の資質向上に向けた研修を行うとともに、教育委員会や県スポーツ協会等と連携し、閉鎖的にならない仕組みづくりを考えていきたい。

※クリーンでフェアなスポーツ活動の基盤となる誠実性・健全性・高潔性等

Q 企業立地支援の制度改正は、Aターン者の雇用に重点を置き、家族を含めた移住が期待されるものの、基本補助率が低くなり、企業には魅力的な内容ではないのではないか。また、研究開発や女性活躍に関する加算が撤廃され、それらを応援するというメッセージ性が弱まるのではないか。

A 家族を含むAターンの雇用者増加が企業のインセンティブにつながる設計としており、結果として現行の補助率に近づくことを期待している。また、理系出身者や女性の受け皿を増やすよう、設計や検査など部門ごとの誘致にも引き続き注力していきたい。

建設 委員会

Q 秋田空港駐車場の利用料金の無料時間を短くするなど、料金の見直しを行う理由は何か。

A 老朽化が進む立体駐車場の改修のほか、冬期間の排雪体制の強化を検討しており、無料時間の短縮は他空港の運用状況等を参考に設定した。料金の見直しは、今後、維持管理費の増大が避けられないためである。こうした対応により、繁忙期や混雑時においても必要な駐車台数を確保し、乗り遅れが生じない環境を整備していきたい。

Q 県立都市公園について、県が従来どおりの維持管理を続けるのではなく、民営化の方向性などを検討すべきではないか。

A 県立都市公園の指定管理には、平成28年度から利用料金併用制を導入するなど、指定管理者自身の知見を活かすことのできる方式を採用しており、今後も、民間事業者のノウハウを積極的に活用した管理運営を推進していきたい。

教育 公安 委員会

Q 県青少年交流センター（ユースパル）の今後の在り方を検討するにあたっては、民間事業者等の声を踏まえるとともに、教育委員会だけでなく、知事部局も含め、横断的に検討していくべきではないか。

A 施設運営については、指定管理や直営など様々な方法がある。会議室等の貸出や宿泊に関する需要の状況も踏まえながら、知事部局とも連携し、総合的に検討していきたい。

Q 警察官の採用試験の受験者数増加に向けて、若い世代へ警察官の魅力を伝えるために、どのような取組を行っているのか。

A若い世代にとって親しみやすい「漫画」に着目し、潟上市出身の漫画家とコラボしたポスター・PR動画を制作して、ウェブサイトやSNS、様々な就職説明会などで発信している。受験者のみならず、県民やメディアからも好評であり、一定の効果が出ていると考えている。



秋田県警察官募集ポスター

予算特別委員会

Q 次期総合計画の目標値や、人口ビジョンに掲げる目指すべき将来人口を達成することにより、どのような秋田の姿を実現しようとしているのか。また、進学や就職を控えた若者や子育て世代に対して、「秋田で暮らしたい」と思ってもらえる前向きなメッセージをどのように発信していくのか。

MOVIE



12月16日



12月17日

A 時代の変化の中で秋田の強みを生かし、それを経済的利益に変えることで、将来に向けて見通しの持てる地域社会の構築を目指していきたい。また、次期総合計画を文字や言葉だけで伝えるには限界があるため、策定にあたっては視覚に訴えかけるビジュアルイメージを用いて、「楽しい秋田になりそうだ」と感じてもらえる内容としたい。

常任委員会では、審査の参考にするため、県内外の先進事例などの視察や調査を行っています。

建設委員会県内調査

河川の改修や復旧状況、道路やダムの整備状況について視察しました。また、「建設業における女性の活躍推進と働きやすい職場環境づくり」をテーマに県民と意見交換を行いました。

11月13日(木)、14日(金)



国道107号本荘道路の視察



県民との意見交換会の様子

- ① 八幡根岸線根岸町工区
- ② 一級河川横手川朝倉工区
- ③ 県民との意見交換会(一般社団法人平鹿建設業協会女性部SAKURA)
- ④ 国道107号北の沢地区
- ⑤ 国道107号本荘道路
- ⑥ 子吉川二十六木地区河道掘削
- ⑦ 一級河川石沢川
- ⑧ 鳥海ダム

令和7年第2回定例会(10月・12月議会)表決状況

議案等	件名 ※下記以外の議案等については全会一致で可決されました。 ※10月議会、12月議会(12月8日、12月19日)の本会議における表決状況は右の二次元コードからご覧になります。	10月31日	12月8日	12月19日	議決月日	議決結果	賛成者数	反対者数	自民				
									鈴木 洋一	鶴田 有司	川口 一	柴田 正敏	加藤 鉱一
知事提出	令和6年度秋田県歳入歳出決算の認定について				10/31	認定	39	38	1	欠	○	○	○
	令和7年度秋田県一般会計補正予算(第5号)				12/19	原案可決	40	39	1	○	○	○	○
	県議会議員の議員報酬等に関する条例の一部を改正する条例案				12/19	原案可決	40	39	1	○	○	○	○
	知事等の給与および旅費に関する条例の一部を改正する条例案				12/19	原案可決	40	39	1	○	○	○	○
	秋田県空港管理条例の一部を改正する条例案				12/19	原案可決	40	28	12	○	○	○	○
	教育長の給与及び旅費等に関する条例の一部を改正する条例案				12/19	原案可決	40	39	1	○	○	○	○
請願	物価・米価高騰による学校給食費の負担軽減を図るために、財政支援を求める請願について				12/19	不採択	40	13	27	×	×	×	×

第25回都道府県議会議員研究交流大会

令和7年11月11日、東京都で第25回都道府県議会議員研究交流大会が開催され、本県から12人の議員が対面で、1人の議員がオンラインで参加しました。

大会は、都道府県議会の共通する政策課題等について情報や意見を交換し、議会機能の充実と活力に満ちた地域づくりに資することを目的とし、「ワンヘルスの推進について」及び「地方創生をめぐる最近の動向」をテーマとした講演が行われた後、「地方創生の推進と地方議会の役割」をテーマにパネルディスカッションが行われました。



永年勤続功労者～全国都道府県議会議長会自治功労者表彰～

第182回全国都道府県議会議長会定例総会において、永年勤続功労者として6名の議員が表彰され、11月18日、県正庁で伝達されました。

【在職30年以上】



いし だ ひろし
石田 寛 議員

【在職10年以上】



いまかわ ゆうさく
今川 雄策 議員



かが や ちづこ
加賀屋 千鶴子 議員

【在職10年以上】



たかはし たけひこ
高橋 武浩 議員



いまいわ ゆうさく
今井 雄策 議員



さとう のぶ き
佐藤 信喜 議員

自民：自由民主党 みらい：みらい 立民：立憲民主党 社民：社会民主党 共産：日本共産党 公明：公明党 きらり：きらり
賛否欄 「○」：賛成 「×」：反対 「議」：議長 「欠」：欠席

自民																				みらい				立民				社民	共産	公明	きらり					
工藤 嘉範	原 幸子	竹 下 博英	北 林 丈正	高 橋 武浩	今 川 雄策	佐 藤 信喜	杉 本 俊比古	佐 々 木 雄太	鈴 木 真実	小 野 一彦	小 山 緑郎	児 玉 政明	住 谷 達	宇 佐 見 康人	島 田 薰	瓜 生 望	高 橋 豪	小 棚 木 政 之	武 内 伸文	高 橋 健	川 邊 隼之介	三 浦 英一	渡 部 英治	三 浦 茂人	佐 藤 正一郎	山 形 健二	石 田 寛	小 原 正晃	薄 井 司	櫻 田 憂子	福 田 博之	加 藤 麻里	加 賀 屋 千 鶴 子	松 田 豊臣	佐 藤 光子	
議	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
議	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
議	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
議	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
議	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
議	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
議	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

議会レポート

●令和7年第2回定例会〔10月議会〕

■期間 10月14日～10月31日(18日間)

●議案の議決状況

知事提出議案

■決算 認定 1件

令和6年度秋田県歳入歳出決算の認定について
10人の議員で構成する決算特別委員会が設置され、予算が適正かつ効率的に執行されたかなど多角的な視点から審査を行いました。

【委員長】

佐々木 雄太(自由民主党)

【副委員長】

川邊 隼之介(自由民主党)

【委員】

杉本 俊比古(自由民主党)、住谷 達(自由民主党)、
宇佐見 康人(自由民主党)、瓜生 望(自由民主党)、
高橋 豪(自由民主党)、三浦 茂人(みらい)、
薄井 司(立憲民主党)、加藤 麻里(社会民主党)



お知らせ

議会開催予定

令和8年第1回定例会(2月議会)

令和8年2月13日(金)～3月19日(木)

※変更となる場合は、秋田県議会ウェブサイトでお知らせします。

テレビ広報

「みんなに発信！明日へ発進！秋田県議会」

奇数月の最終日曜日に、秋田朝日放送(AAB)で午前11時から放送。

今後は、1月25日、3月29日に放送予定。議員へのインタビューを交えながら、県議会の様子をお伝えします。

放送後はYouTubeでも配信しますのでぜひご覧ください。



YouTube

表紙 大日堂舞楽

毎年1月2日に行われる大日靈貴神社例祭で奉納される。養老年間(717～724年)に都から下向した楽人によって伝えられたといわれ、八幡平地区の4集落が継承しており、本舞は集落によって異なる舞が伝承されている。(表紙写真提供:鹿角市)

※写真は色調を調整しています。



鹿角市役所ウェブサイト